



さんさんだより

令和元年 11月15日(第2号)発行

兵庫小学校
算数 少人数TT



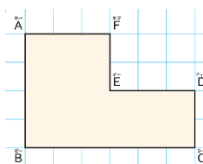
2学期が始まって、2ヶ月半経ちました。子どもたちの2学期前半の算数の学習の様子をお知らせします。

2学期は、自然教室・秋の遠足・ふれあい集会・フリー参観日などの大きな行事だけでなく、どの学年もいろいろな行事におわれていますが、なるべく学習に落ち着いて取り組むようにしています。2学期末までに、後1ヶ月半ですが、後半はまとめの時期ともなりますので、ご家庭でも声をかけていただくと、より効果的だと思います。

(4年生) 4年生は、広さの学習で長方形と正方形の面積の公式を学びました。面積を正確に表したり、広さを比べたりするには「単位」が必要になります。そこで、新しい単位である「 cm^2 ・ m^2 ・ a (アール)・ ha (ヘクタール)・ km^2 」の5つを学習しました。

1 cm^2 は実際にその大きさの色画用紙をノートに貼り、1 m^2 には実際にみんなで乗ってどのくらいの広さか体感しました。子どもたちにとって分かりにくい1 a はだいたい音楽室くらいの広さ、1 ha は運動場いっばいに描いた大きな正方形の広さ、1 km^2 は地図上に正方形を描き、どのくらいの広さか身近なもので考え、量感をイメージしました。単位の換算が難しく感じたようです。単位のしくみがしっかり理解できるよう、繰り返し練習をしていきます。

こんな形の面積は？



(6年生)「拡大図と縮図」の学習について

「拡大図と縮図」の学習をした後で、縮図を使って、学校の校舎や照明灯の高さを求める学習を行いました。実際に測らなくても、縮図を書いて計算すれば、校舎や照明灯の高さがわかり、算数で学習したことが、生活の中で役立つことは、子ども達にとって驚きで、意欲をもって学習できました。

「速さ」の学習について

「速さ」は「道のり÷時間」で求めることができますが、「時間」は目に見えないものなので、理解が難しい学習内容です。そこで、100mを自分で実際に歩いた時と走った時の1mあたりのかかる時間や1秒あたりの進む距離を求めさせることで、速さの意味を体験的にとらえさせました。自分の歩く速さや走る速さを秒速、分速、時速で求めたので生活の中でいろいろ使えると思います。例えばウサイン・ボルトが、時速36kmで走るの自分と比べると、目標地点まで歩いて何分かかかるかも計算で出せると思います。

【100mの速さをはかる】



【運動場の照明塔の角度を測る】



（3年生）「大きい数のしくみ」の学習について

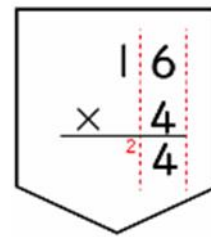
1万より大きい数（一億まで）について学習しました。教科書では、宮城県、東京都、高知県の人口で読み方を考えました。この学習では、位に気をつけること、「一、十、百、千」の繰り返しになっているので、4けたごとに線を入れて読みやすくすることを確認しました。



子どもたちは、やはり桁数が多いために、苦手意識をもつ学習でしたが4年生でも、さらに大きな数の学習がありますので、繰り返し練習をしていきます。

「かけ算の筆算」の学習について

かけ算の筆算について、初めて学習しました。2年生でも、たし算・ひき算の筆算の学習をしています。その際にも、繰り上がりや繰り下がりが出てきました。かけ算でも繰り上がりがありました。これから2けたをかけたり、高学年で小数をかけたりするときの基礎となりますので、繰り上がりの数のたし忘れを防ぐためにも、全クラスで記入の仕方を統一しました。ひき続き練習を繰り返しながら、確実に身に付けさせたいと考えています。



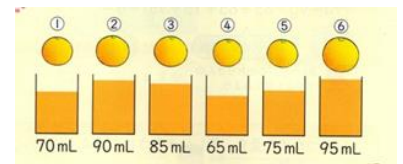
「四六24」の4を一の位に書き、2を十の位にくり上げる。

（5年生）「単位量あたりの大きさ」の学習について

この単元では、まず、ジュースの量やたまごの重さを用いて、「平均」の意味と「平均＝合計÷個数」で求められることを学習しました。「単位量あたりの大きさ」の学習では、「面積」と「うさぎの数」の関係から、うさぎ小屋の混み具合を調べました。

子ども達に「1㎡あたりのうさぎの数」「うさぎ1ぴきあたりの面積」のどちらを求めているのか意識させて、「広さが等しい時」「うさぎの数が等しい時」を比べながら、それによって数値の大きい方が混んでいたたり、数値の小さい方が混んでいたたりすることを確認しながら学習を進めていきました。

この単元は、思考力を問われる学習なので、グループで話し合いをすることで、疑問が解けたり、より簡単な方法を知ったりすることが徐々にできています。



1㎡あたりのうさぎの数が多い方が混んでいるなあ。

頭の体操問題

家族みんなで挑戦して解いてみませんか？

答えは兵庫小学校のホームページの「さんさんだより」をご覧ください。

4	9	2
3	5	7
8	1	6

正方形が9つのますめに分かれている。それぞれのますめに、1から9までの数字を1回ずつ入れて、たて、横、対角線の3つの数字の和がどれも等しくなるようにせよ。ただし、中央には5が入るものとする。